私たちの暮らすオホーツクエリアは世界自然遺産「知床」をはじめとする、豊かな自然に囲まれています。観光資源としても地域経済を支えているこの「地球からのおくりもの」をこれからも維持していくためには、私たち地域住民が日ごろからの生活をより「エコ」にしていくことが重要です。本日からシリーズで連載する「オホーツクＥＶ大学」では、“走行中の排出ガスゼロ”という環境性能をもつ電気自動車(EV)にスポットを当て、オホーツクエリアで実践できる「エコ」について考えます。

オホーツク EV 大学

第1講

# 電気自動車（EV）のある暮らし

## 仕事に、レジャーに日々の暮らしをＥＶが支えてくれる。

遠軽町で仕出し・お弁当の老舗料理店「西川」の息子さんとして活躍中の西川隆太さんと、お姉さんの大橋宏美さんにリーフ購入のきっかけや感想を伺いました。

Owner's Interviewer
遠軽町 株式会社 西川
西川 隆太さん
大橋 宏美さん

### 快適な乗り心地と驚きの加速体験

配達業務で車を使う機会が多いので、以前から維持費が安く、燃費の良い車を探していました。
その中で、日産リーフの、維持費や燃費、税金などのランニングコストに目が留まりました。また、有害なガスを排出しないというクリーンで新しい乗り物というところに惹かれ、2011年12月、会社用と個人用に2台のリーフを購入しました。
仕出し弁当の配達をメインに使っていますが、荷物を十分に積める大きな空間と、出し入れしやすい開口部の広いリアのおかげで、仕事もスムーズに進みます。
走りについては想像以上でした。瞬時にトルクが立ち上がるＥＶならではのレスポンスのよさと、今まで体感したことのないスポーツカーのような加速感には驚きました。

### 遠出には不安を感じていたけれど…

配達エリアは、遠軽町の市街地を起点に丸瀬布、白滝、湧別、安国へと広範囲にわたります。
カタログ上では満充電で２００km[※1]走るといわれていても、実際に起伏の多い地形や気象、道路状況によっては、配達先から戻ってこられるのだろうかといった不安も正直ありました。
しかし、約半年リーフに乗ってその心配は完全に払拭されましたね。
先日、湧別まで配達したときは、回生協調ブレーキ[※2]の働きと、微妙な下り坂になっている帰り道のおかげで、往復での電力消費は実質ゼロでした。
リーフは家族や社員間のコミュニケーションツールにもなっているんですよ。「電力の消費が少ない運転方法はこう」、「このルートの方が電費がいい」とか、そして何よりみんなの車に対する意識が変わってきましたね。電費を考えるので、運転が優しくなり、これまで以上に安全運転を心がけるようになりました。

### 北海道の冬でも安心

実は、購入するなら一年で一番過酷な環境の冬を経験するのが一番だと考え、昨年の冬に使いはじめました。暖房による電力消費が気になっていましたが、リーフにはステアリングヒーターとシートヒーターが装備され(※寒冷地仕様車には標準装備)、直接体を温めてくれるので、温風暖房をあまり使わずに済みます。また、一番重いバッテリーが車体中央の床下に設置されているので、冬道でも安定した走りができるのもうれしいですね。

### 圧倒的な低ランニングコスト

ガソリン車に乗っていた時は2台で毎月8～9万円の燃料代がかかっていましたが、リーフにしてからは1台1ヵ月2、000～3、000円の電気代で済むようになり驚いています。
充電は、夜間電力を利用して寝ている間におこなっています。急きょ充電が必要な時は、近くの北見日産へ行き、急速充電で対応します。ちょっとコーヒーを飲んでいる30分程度の間に80%まで充電[※3]できるので、とても助かります。
将来的には、太陽光発電で電気代も賄おうと考えているんですよ。
「今後は様々な場所に充電設備が広がり、より走りやすく、使いやすい環境になればいいですね」と、人に環境にやさしい“ＥＶの輪”が広がっていくことを期待する西川さんご姉弟。自分たちの暮らしに合わせたカーライフではなく、リーフと一緒に楽しむカーライフを実践している姿がとても印象的でした。

※1 JC08モード（国土交通省審査値）の場合。充電走行距離は定められた試験条件での値です。使用環境（気象、渋滞等）や運転方法（急発進、エアコン使用等）に応じて値は異なります。
※2 回生とは減速時に、ダイヤの回転によって電気を起こす機能です。モーターが発電機の役割を果たし、発電した電気をバッテリーに充電するしくみです。「回生協調ブレーキ」とは、ブレーキペダルを踏んだとき、油圧ブレーキより先に回生の作動を優先させることで最大限のエネルギーを回収する装置です。車両、バッテリー、モーターの状態に応じて、「回生」による制動と油圧ブレーキによる制動の割合を最適に調整します。
※3 充電時間は目安であり、気温や電源の状態により、充電時間が異なる場合があります。

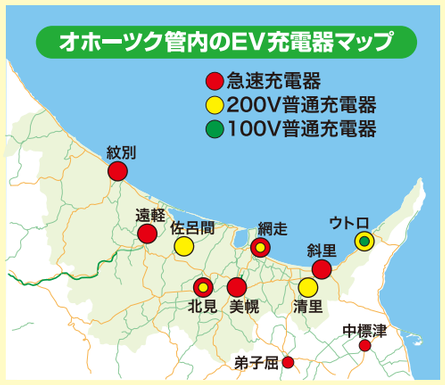
## Q1 電気自動車（EV）ってどんなクルマ？

**A** ガソリンを燃焼させて車を稼動させるガソリン車に対し、電動モーターで稼動する車が電気自動車（EV）です。EVの特徴としては、以下の3点が挙げられます。

**❶走行時にCO2などの有害ガスを排出しない（地球にエコ）**
**❷騒音や振動が少ない（人にエコ）**
**❸ランニングコストが低い（お財布にエコ）**

## Q2 充電環境はどうなっているの？

**A** EVを使うためには、外部電力での充電が必要です。設備や環境を整えれば、自宅やオフィスでも充電をおこなうことができます。最近では、短時間での充電が可能な「急速充電器」の設置が、ガソリンスタンドや自動車ディーラーなどを中心に広がりをみせ、ここオホーツクエリアでも急速充電器が6器設置されています。今後も国や自治体が中心となり、設置を進めていく予定です。




2012年5月現在　※施設によって利用料金が異なります。

## Q3 走行性能は？

**A** 高い環境性能を誇るEVですが、走行性能に対しても高い評価が聞こえてきます。
EVにはエンジンの燃焼による振動、騒音がないため静かで滑らかな走行が可能です。加えて、EVを稼動させるモーターの研究も進み、加速性能や安定性も向上しています。日産リーフの場合、独自のモーター制御技術を活かし、異次元の加速性能を実現。リチウムイオンバッテリーを車体中央の床下に搭載し、優れた重量バランスと低重心を実現し、高い安定性を実現しています。

## Q4 EVはお財布にもエコ？

**A** 自動車購入の際には、初期費用のほかにランニングコストも気になります。
環境性能に優れたEVは、地球温暖化防止などの対策に有効なため、導入に当たってさまざまな優遇が受けられます。また、EVはもちろんエコカー減税の対象です。加えて気になるのが、「ランニングコスト」。EVにはエンジンやミッションがないため、オイルエレメントなどの交換が不要になり、メンテナンス費用は安くなる傾向にあります。また、安価な夜間電力を使って充電することで、ガソリン車より低いコストで維持することが可能です。

【EVの優遇制度】

**クリーンエネルギー自動車等導入促進対策補助金**
EVの普及促進のため、同クラスガソリン車との差額の半額相当を補助
リーフXの場合 最大 78万円

**エコカー減税**
自動車取得税 自動車重量税 いずれも 免税
購入翌年の自動車税 50%減税

※補助金の詳しい情報は「次世代自動車振興センター」ホームページをご確認ください。エコカー減税の詳細は各自動車販売店までお問い合わせください。

企画：北海道新聞北見支社 営業部　協力：オホーツクEV推進協議会